

# 全文構造解説

## この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。  
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後に全文を通読する。その際、訳すのではなく頭から意味をとりながら、できるだけ早く読むことを意識する。

## 凡例および注意点

凡例：

Ⅰ = 大問番号    1 = 段落番号    ① = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部）    動 = 動詞（句）    目 = 目的語（句・節）    補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節）    関代 = 関係代名詞    過分 = 過去分詞    など

「    」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[    ] / {    } / [[    ]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

\*1 = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

(    ) = 省略可、あるいは補足・別表現

[    ] = 直前の語句との入れ換え可

<    > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語    など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

## I

**1 1** Throughout history most humans took war for granted, whereas peace was a temporary state.

**構造** 副<sup>1</sup> **Throughout history** 「歴史を通じて」 主**most humans** 動**took** 目**war** 副**for granted**, 「ほとんどの人間は戦争を当然のものにとらえた」 接**whereas** 主**peace** 動**was** 補・名**a temporary state**. 「一方、平和は一時的な状態だった」

\*1：〈前置詞＋名詞（前置詞の目的語）〉は、原則として副詞句と考えるとよい。副詞（句・節）は〈文の要素〉に当たらないので、なくても文は文法的に成立するし、その置き場も比較的自由である。なお、文頭の副詞句は、わかりやすくするためにその直後にコンマを入れるのがふつうだが、この文章においてはあまりコンマを使っていない。意味の切れ目を正しく判断する必要があるだろう。

**語句** take O for granted [græntəd | グランテド] 「Oを当然のことと見なす」(※形式目的語を使う take it for granted that ～「～ということを当然と見なす」も覚えておく)、whereas [weəreɪz | ウエアラス] 接「一方」、temporary [tɛmpərəri | テムポレリ] 形「一時的な」、state [steɪt | ステイト] 名「状態」

**2** International relations were governed by the Law of the Jungle, according to which even if two nations lived in peace, war always remained an option.

**構造** 主**International relations** 動**were governed** 副**by the Law of the Jungle**<sup>1</sup>, 「国際関係は弱肉強食の法則によって治められた」 [副]{**according to** 関代<sup>2</sup>**which**} 「それによると」 副{接**even if** 主**two nations** 動**lived** 副**in peace**}, 「たとえ2つの国家が平和に暮らしていたとしても」 主**war** 副**always** 動**remained** 補・名**an option**]. 「戦争は常に選択肢に残っていた」

\*1：コンマ（,）は情報を追加するときに使われることが多い。ここでは、the Law of the Jungleを具体的に説明するために、コンマ以降の情報を追加していると考ええる。

\*2：直前にコンマを伴う whichは、関係代名詞の非制限（継続）用法で、先行詞に説明を加える役割をする。ここでの先行詞はコンマ前の the Law of the Jungle。

**語句** relation [rɪleɪʃən | リレイション] 名「関係」、govern [gʌvərn | ガヴァン] 動「統治する」、the Law of the Jungle [dʒʌŋɡl | チャングウ] 「弱肉強食の法則、自然選択」、nation [neɪʃən | ネイション] 名「国家」、according [əksɔːrdɪŋ | アコーディング] to ～「～によると」、remain [rɪmeɪn | リメイん] 動「ままである、残る」、option [ɒpʃən | オプション] 名「選択肢」

**3** For example, even though Germany and France were at peace in 1913, everybody knew that they might be fighting each other in 1914.

**構造** 副**For example**, 「例えば」 副{接<sup>1</sup>**even though** 主**Germany and France** 動**were** 副<sup>2</sup>**at peace** 副**in 1913**}, 「1913年、ドイツとフランスは平和時にあったが」 主**everybody** 動**knew** 「だれもが知っていた」 目<sup>3</sup>{接**that** 主**they** 動**might be fighting** 目**each other** 副**in 1914**}. 「1914年にはお互いと戦っているかもしれないということを示す」

\*1：evenはthoughを強調する副詞、thoughは譲歩を表す接続詞だが、この2語で接続詞句と理解する。語はもちろん句や節についても品詞的な役割を理解することが大切。even though以降コンマ前ま

では、接続詞に導かれる副詞節で、コンマ以降の主節に対する従属節。なお、〈主語＋動詞〉構造を中心とする複数の語からなる意味のまとまりが〈節〉で、〈主語＋動詞〉構造を中心としない複数の語からなる意味のまとまりが〈句〉である。

\*2：be動詞はSVC（第2文型）を作る典型的な動詞。be動詞のあとには補語（C）となる名詞や形容詞が続くことが多いが、このように副詞句が続くこともある。このとき、be動詞は「存在する」の意味で考えるとわかりやすい。もっとも、be動詞が「主語と、be動詞のあとに続く語句を内容上イコールで結ぶ（第2文型）」ことがわかっていれば、直感的に意味は理解できるだろう。[暗例] Your car key is on the sofa. 「あなたの車のカギがソファの上にあるよ。」(※ on the sofaは場所を表す副詞句だが、内容上 Your car key = on the sofaがイメージできればよい)

\*3：文の冒頭に接続詞 that を置くことで、その文を「～ということ」という意味の名詞節に変換できる。このような名詞節を〈that節〉という。例えば、The U.S. is the only superpower of the day. 「アメリカは当代唯一の超大国だ。」という文を、that the U.S. is the only superpower of the day 「アメリカが当代唯一の超大国だということ」という名詞節にすると、これを主語や目的語に組み込めるようになる。[暗例] It is obvious that the U.S. is the only superpower of the day. 「アメリカが当代唯一の超大国であることは明らかだ。」(※ that節を真主語に組み込んだ形)

**語句** each other [iːtʃ əðər | イーチャアダ] 名「お互い」

**4** Whenever politicians, generals, business people and ordinary citizens made plans for the future, they always left room for war.

**構造** 副{接<sup>1</sup>**Whenever** 主**politicians, generals, business people and ordinary citizens** 動**made** 目**plans for the future**}, 「政治家、将軍、ビジネスパーソン、ふつうの市民が将来の計画を立てたときはいつでも」 主**they** 副**always** 動**left** 目**room for war**. 「彼らは常に戦争の余地を残していた」

\*1：接続詞 whenever 「～するときはいつでも」が従属節である副詞節を導いている。ここでは〈とき〉を表す接続詞 when に、〈強調〉の ever がくっついたものと考えるとよい。

**語句** politician [pəlɪtɪʃən | パリティション] 名「政治家」、general [dʒɛnərəl | ジェネラウ] 名「将軍、大将」、ordinary [ɔːrdənəri | オーディネリ] 形「ふつうの」、citizen [sɪtəzn | スイテズン] 名「市民」、room 名「(不可算で) 余地」

**5** From prehistoric times to the age of steam, every person on earth knew that at any moment the neighbors might invade their territory, defeat their army, kill their people and occupy their land.

**構造** 副<sup>1</sup>**From prehistoric times to the age of steam**, 「先史時代から蒸気の時代まで」 主**every person** <sup>2</sup>**on earth** 動**knew** 「地上のあらゆる人は知っていた」 目{接**that** 「～ということを示す」 副**at any moment** 主**the neighbors** 「いつでも隣人は」 動<sup>3</sup>{**might invade** 目[[**their territory**]}, **defeat** 目[[**their army**]}, **kill** 目[[**their people**] 接**and occupy** 目[[**their land**]]}], 「自分たちの領地を侵略し、軍隊を打ち負かし、人々を殺害し、土地を占領するかもしれない」

\*1：相関表現 from A to B 「AからBまで」。基本的な表現だが、AとBが長くなるときには構造理解の指針になる。

\*2：副詞句 on earth には、「地球上で」が転じて、「いったい」という強調の意味もある。ここではどちらでもとらえてもよい。[暗例] What

on earth are you doing? 「あなたはいったい何をしていますか。」 \*3：並列は、A, B, and C 「AとBとC」のように表すのが基本。ここでは4組の〈動詞＋目的語〉が並列している。

**語句** prehistoric [priːhɪstɔːrɪk | プリーヒストリク] 形「先史時代の（pre「前」＋historic「歴史の）」(※文字が生まれるより前の時代のこと)、steam [stiːm | スティーム] 名「蒸気(※ここでは蒸気機関による産業革命の隠喩と解釈できる)」、at any moment 「いつでも」、neighbor [neɪbər | ネイバ] 名「隣人」⇒neighboring 形「隣の」、invade [ɪnveɪd | インヴェイド] 動「侵略する」、territory [tɛrɪtɔːri | テリトリ] 名「領地」、defeat [dɪfɪt | ディフィート] 動「打ち負かす」、army [ɑːrmi | アーミ] 名「(陸)軍」、occupy [ɒkjʊpaɪ | オキュバイ] 動「占領する」

**2 1** During the second half of the twentieth century this Law of the Jungle has finally been broken, if not abolished.

**構造** 副**During the second half of the twentieth century** 「20世紀の後半の間」 主**this Law of the Jungle** 動**has finally been broken**], 「この弱肉強食の法則はついに破られた」 副{接**if** 動<sup>1</sup>**not abolished**}. 「廃止されたとはまだはいかないにしても」

\*1：副詞節において省略される主語は、原則として主節の主語と同じと考える。ここでは the Law of the Jungle と be動詞 was（または has (not) been）の省略。接続詞の if は「たとえ～だとしても」〈譲歩〉の、even if の意味でとらえるとよい。

**語句** abolish [əbəlɪʃ | アバリシュ] 動「廃止する」

**2** In most areas wars have become rarer than ever.

**構造** 副**In most areas** 「ほとんどの地域で」 主**wars** 動**have become** 補・形**rarer** 副**than ever**. 「戦争はかつてなく、まれになった」

**語句** rare [rɛər | レア] 形「まれな」

**3** Whereas in ancient agricultural societies human violence caused about 15 percent of all deaths, during the twentieth century violence caused only 5 percent of deaths, and in the early twenty-first century it is responsible for about 1 percent of global mortality.

**構造** 副{接**Whereas** 「～の一方」 副**in ancient agricultural societies** 「昔の農業社会で」 主**human violence** 動**caused** 目**about 15 percent of all deaths**}, 「人間の暴力がすべての死の約15%を引き起こした」 副**during the twentieth century** 「20世紀の間」 主**violence** 動**caused** 目**only 5 percent of deaths**, 「暴力はわずか5%の死を引き起こし」 接**and** 副**in the early twenty-first century** 「そして21世紀の初頭では」 主**it** 動**is** 補・形**responsible for about 1 percent of global mortality**. 「それ(暴力)は世界の死亡率の約1%の原因となっている」

**語句** ancient [eɪnʃənt | エインシェント] 形「昔の」、agricultural [əgrɪkʌltʃərəl | アグリカッチュラウ] 形「農業の」、violence [vaɪələns | ヴァイオレンス] 名「暴力」、cause [kɔːz | コーズ] 動「原因となる、引き起こす」、responsible [rɪspɒnsəbl | リスパンセブ] for ～「～に責任がある、原因がある」⇒responsibility [rɪspɒnsəbɪləti | リスパンセビリティ] 名「責任」、global [gləʊbl | グロウバウ] 形「世界的な」、mortality [mɔːtələti | モタリティ] 名「死亡率」

**4** In 2012 about 56 million people died throughout the world; 620,000 of them died due to human violence (war killed 120,000 people, and crime killed another 500,000).

**構造** 副**In 2012** 「2012年」 主**about 56 million people** 動**died** 副**throughout the world**<sup>1</sup>; 「世界中で約5.600万人が亡くなった」 主**620,000 of them** 動**died** 副**due to human violence** 「そして、そのうち62万人が人間の暴力が原因で亡くなった」 (主**war** 動**killed** 目**120,000 people**, 「戦争で12万人が亡くなり」 接**and** 主**crime** 動**killed** 目**another 500,000**). 「そして犯罪でもう50万人が亡くなった」

\*1：セミコロン（;）は、コンマとピリオドの中間の長さの休止、等位接続詞の代替、接続副詞で接続するときなどに使う。ここでは and の代わりと解釈した。

**語句** throughout [θruːaʊt | トゥルーアウト] 副「～をとおして」、due to ～「～が原因で」、another [ənəðər | アナダ] 形「別の、もうあと」 [暗例] Wait for another five minutes, please. 「もうあと5分お待ち下さい。」

**5** In contrast, 800,000 committed suicide, and 1.5 million died of diabetes.

**構造** 副**In contrast**, 「対照的に」 主**800,000** 動**committed** 目**suicide**, 「80万人が自殺し」 接**and** 主**1.5 million** 動<sup>1</sup>**died of** 目**diabetes**. 「そして、150万人が糖尿病で亡くなった」

\*1：die of a disease 「病気で亡くなる」は、動**die** 副**of a disease** と解釈してもよいが、die of の結びつきが強いので、ここではこの2語を他動詞（目的語をとる）、続く名詞を目的語として解釈した。確認までに、動詞が目的語をとるとき、その動詞を〈他動詞〉、目的語をとらないとき、その動詞を〈自動詞〉という。自動詞が目的語をとるために前置詞を要する場合があるが、このときの目的語は〈前置詞の目的語〉と言うこともできる。

**語句** in contrast [kɒntræst | カントウラスト] 「対照的に、一方」、commit (a) suicide [kəmɪt - sɪːsəɪd | コミト スーアサイド] 「自殺する」、die of ～「(主に病気) ～で亡くなる」、diabetes [daɪəbɪːtɪz | ダイアピーティーズ] 名「糖尿病」

**6** Sugar is now more dangerous than guns.

**構造** 主**Sugar** 動**is** 副**now** 補・形**more dangerous** 副**than guns**. 「砂糖は今や、銃よりも危険である」

**語句** gun [ɡʌn | ガン] 名「銃」

**3 1** Even more importantly, a growing segment of humankind has come to see war as simply impossible to imagine.

**構造** 副**Even more importantly**, 「さらにより重要なことに」 主**a growing segment of humankind** 「人類の成長しつつある一面は」 動<sup>1</sup>**has come to see** 目**war** 副**as** 補・形<sup>2</sup>**simply impossible to imagine**. 「戦争を、単純に想像できないとして見なすようになってきた」

\*1：本書では、動を1つの意味のまとまりで表している。ここでの have come to see は、文法的には動 have come 目 to see 「(見ることに来ている→) 見るようになっていく」だが、意味的には「見るようになっていく」の1つの意味としてとらえられる。同様に、助動詞や否定の副詞 not、want to do 「～したい」などの頻出表現も、1つの動詞の意味のまとまりとして扱う。

\*2：see O as C 「OをCをして見る」という語法。前置詞は本来名詞の前に置かれるものなのだが、ここでは前置詞 as が補語となる